

すべての瞬間に、かけがえのない感動が輝いている。 多彩な才能が花開くキャンパスライフ

「学友会トライアスロン部」が全国大会2連覇



2008年5月に開催された「第22回潮来トライアスロン全国大会」で、東北大学の「学友会トライアスロン部」が個人・団体の部(男子)で優勝を果たした。この大会の団体の部では2連覇となる。

学友会トライアスロン部は、2005年の日本学生トライアスロン選手権大会(インカレ)で男子団体優勝、女子個人優勝という栄光に輝いた。この大会での男子団体優勝は、国立大学としては日本初であり、女子優勝者は世界選手権のU-23日本代表選手にもなった。同部は以後も毎年、各種大会で優秀な成績を収めており、今後益々の活躍が期待されている。

精鋭揃いの「コントラクトブリッジクラブ」

コントラクトブリッジは、確率論の知識や数学的思考も要求される知的なゲームとして、チェスと並び世界中に愛好者がいるカードゲーム。東北大学の「コントラクトブリッジクラブ」は2007年、3年連続でパシフィックアジア選手権に出場した。出場者は日本コントラクトブリッジ連盟による強化合宿や2度の選抜試合などを通じて選ばれるが、東北大学は1大学から3名も出場するという前例のない快挙を成し遂げた。



「学友会競技ダンス部」が個人の部で優勝



写真提供：月刊ダンスビュー

東北大学「学友会競技ダンス部」部員が、2007年12月に開催された全日本学生競技ダンス選手権に宮城学院女子大学「競技ダンス部」部員とペアを組んで出場し、見事優勝を果たした。ラテンの部「ルンバ」に出場した約50組の選手と競演し、全国大会における個人の部としては東北大学初の優勝となった。

「学友会囲碁部」から学生名人誕生

2008年2月に日本棋院市ヶ谷会館で行われた「第25回全日本学生囲碁名人戦決勝三番勝負」において、「学友会囲碁部」の太田尚吾が優勝を果たし、東北大学に学生名人が誕生した。全日本学生囲碁名人戦は大会期間を3期に分け、1・2期はインターネット対局、3期(決勝)で碁盤を使った三番勝負が行われる。



全日本学生囲碁名人戦は大会期間を3期に分け、1・2期はインターネット対局、3期(決勝)で碁盤を使った三番勝負が行われる。

人気を集める恒例の公演「模擬裁判」

東北大学法学部模擬裁判実行委員会では、タイムリーな社会問題をテーマとする模擬裁判公演を毎年行っている。模擬裁判とはいわゆる「裁判劇」で、裁判の法廷シーンと、その背景となる問題を解説する日常会話シーンで構成されるものだ。この活動の歴史は古く、1952年の大学祭で行われたものを第1回として、2008年で57回目となる。現在では毎年約1000人の観客を集める人気公演となっており、2007年10月には「裁判員制度」をテーマに取り上げ、2008年は東北大学百周年記念会館で「尊厳死」をテーマに上演する。



食料問題を考える「日本SHOCK!フェア」



法学部経済産業行政論ゼミ「食料安全保障チーム」では2008年1月、東北大学生協の協力を得て「もし海外からの食料供給が途絶したら毎日どんな食事になるのか」というテーマで「日本SHOCK!フェア」を行った。これは、日本で自給できる食材だけで作ったメニューを学食で体験し、2007年には39%にまで低下した食料自給率を考えようという試みだ。「輸入が止まれば食生活は崩壊してしまう」「世界では異常気象が多発している」「地球の人口が2050年には90億人を超える」など、食料危機に関するさまざまな問題について警鐘を鳴らす、意欲的なイベントとなった。

日本学生支援機構「優秀学生顕彰事業」で4名が受賞

独立行政法人日本学生支援機構では、学術や文化・芸術活動、スポーツ活動、社会貢献活動などで優れた業績を挙げた学生を奨励・援助する、優秀学生顕彰事業を行っている。2007年度は東北大学から4名が受賞した。

<p>学術</p>  <p>優秀賞 東北大学 工学部 4年 猪股 直生 カーボンナノチューブによるナノデバイスとそのバイオ応用に関する研究。国内学会発表。</p>	<p>学術</p>  <p>優秀賞 東北大学 工学部 4年 小原 健 制御工学と生物学の融合分野の研究。新しい顕微鏡装置の開発。国内学会発表多数。</p>	<p>学術</p>  <p>優秀賞 東北大学 医学部 6年 眞野 唯 医学。全内臓逆位症例の検討。国内学会発表、国内学術誌掲載。</p>	<p>文化芸術</p>  <p>大賞 東北大学 経済学部 3年 土屋 宏明 【珠算】第十六代珠算名人、全日本珠算技能競技大会個人総合優勝、全日本珠算選手権大会個人総合優勝。</p>
--	--	---	---